

# 第14回観てさわって、科学、体験 2007 フェスティバルの参加報告

## フェスティバル参加委員会

委員長 大福 学（環境建設技術班）  
副委員長 谷端良次（電気電子・情報系技術班）  
委員 土居正典（機械系技術班）  
委員 岡野 聡（化学・材料系技術班）  
委員 政岡 孝（実習工場技術班）  
委員 平田智照（自然科学系技術班）

### 1. はじめに

「第14回観てさわって、科学、体験 2007 フェスティバル」が11月10日（土）と11日（日）の2日間にわたり開催された。この催しは、開かれた大学として地域社会と連携し、実体験のなかで自然の不思議や法則、科学技術の進歩とそのすばらしさに観てさわって、感動してもらうもので、工学部および理学部が主体となり、四国電力株式会社の協賛、各種委員会等の後援を受けて実施されている。工学部技術部としては6回目を迎え、従来から実施してきた「空気ロケットを飛ばそう！作ろう！」と3回目の実施となる「リサイクル握力計をつくらう」の2テーマで参加した。

### 2. 実施状況について

今年は2日間とも好天に恵まれ、会場がオープンして間もなく多くの来場者が訪れ、両コーナーとも順番待ちをする状況となった。スタッフ一同、休憩や昼食も取れないような忙しさで終日対応に追われた。参加人数は、「空気ロケットを作ろう・飛ばそう」コーナーでは、1日目が約270名、2日目が約310

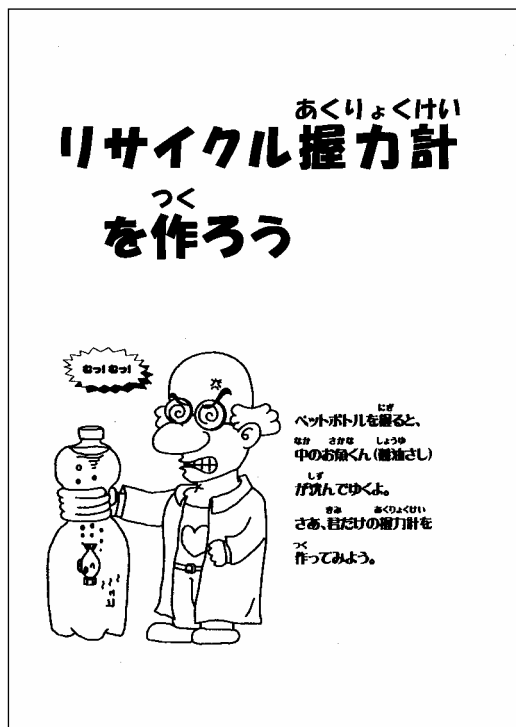


写真 - 1 技術部テーマのパフレット

名、「リサイクル握力計をつくろう」では、1日目が約170名、2日目が約200名であった。

「空気ロケットを飛ばそう！作ろう！」のコーナーには、幼児から小学校低学年の子供たちが多く、フィルムケースに厚紙を切取った羽根を取付け、さらにシールを貼り、絵を書き入れて個性豊かな空気ロケットを作っていた。その後、コーナーに設置している発射台に取り付け、自転車の空気入れを数回押し、「ぼん」と音を発して壁に取り付けた大型ロケットの的に向かって飛び出していく様子に感動していた。

また、「リサイクル握力計をつくろう」では単純に沈むタイプと、浮き上がる時に回転するタイプの浮沈子をサンプルとして作っておいて、子供たちにどちらかを選んでもらう方式とした。小さい子供たちは、浮沈子が沈んで浮き上がる様子に驚き、少し大きい子供たちは、なぜ握る力によって浮き沈みするかを興味深く質問をしていた。

### 3.おわりに

今年度も、人気のテーマであることから多くの来場者を迎え、休憩も取れない忙しさではありましたが、地域の子供たちと接する機会を得て楽しめたことは良かったと思います。皆様のご協力のもと無事に終了することができました。この科学体験フェスティバルに参加するにあたり、工学部総務係、科学体験フェスティバル実行委員会、工学部等技術職員各位、「リサイクル握力計をつくろう」においては、学生アルバイトにご支援いただきましたことに厚くお礼申し上げます。



写真 - 2 会場風景